

もっと



知ってほしいシリーズ冊子・インターネット情報に関するアンケート結果

実施期間	2015/3/18～2015/3/31
アンケート依頼数	409施設
アンケート依頼先	がん診療連携拠点病院 患者相談支援室
アンケート回答数	88施設
設問数	10問
アンケート調査方法	郵送による送付・FAX回収

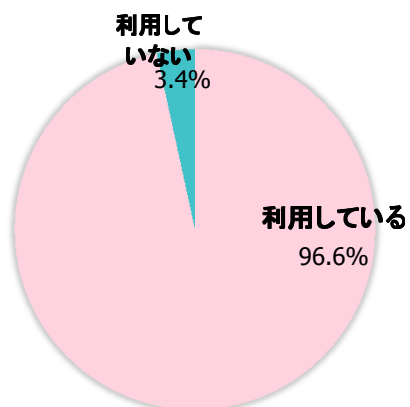
2015.5.26作成

1. 冊子について

がんと診断された患者・家族が、疾患に関する正しい情報を得て自分らしくがんと向き合えるよう、その支援を目的に、各種がんの解説やがんと栄養等について、冊子「もっと知ってほしいシリーズ」を作成。これらの疾患情報冊子の制作は、さまざまな企業からの支援を受け、現在までに計18シリーズを発行しています。

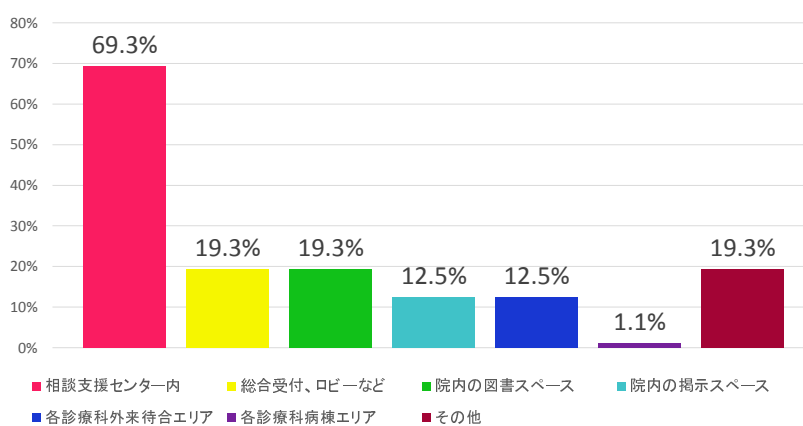



1-1. 掲示、利用しているか



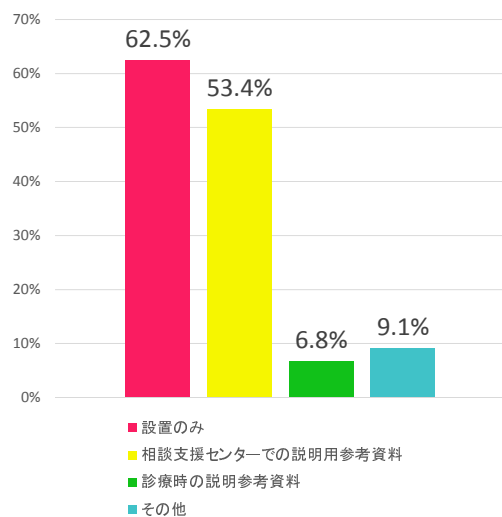
- ・アンケート回収88施設中、85施設(96.6%)で掲示、利用しているとの回答が得られた。
- ・利用していないと回答した施設はわずかに3施設(3.4%)であった。

1-2. 冊子の設置場所



「相談支援センター内」が最も多く、7割近くを占めていた。

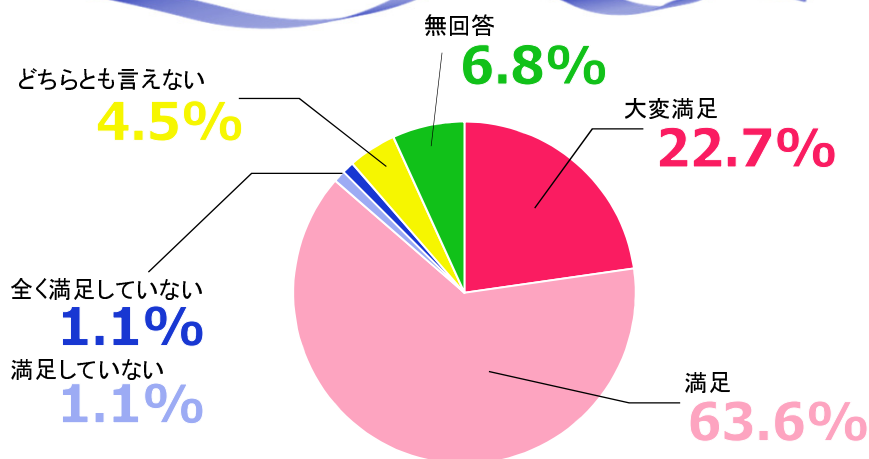
1-3. 冊子の活用方法



・「設置のみ」が最も多く、「相談支援センターでの説明用参考資料」としても約50%の割合で活用されている。
 ・2013年には5%に満たなかった「診療時の説明用参考資料」としても活用の幅を広げて利用されている様子。

CNJ CancerNet Japan

1-4. 冊子の満足度

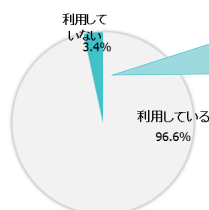


・「大変満足」「満足」合わせて85%以上であり、高い満足度を得られていることが分かった。満足していない施設は各1施設であった。

CNJ CancerNet Japan

1-5. 利用が難しい理由

1-1. 掲示、利用しているか



すべての施設(96.6%)で
掲示、利用しているとの
回答が得られた。
・利用していないと回答
した施設はわずかに3
施設(3.4%)であった。

CNJ CancerNet Japan

- ・がん情報サービスの冊子を掲示している。
- ・サイズが大きいため場所をとる。
- ・既に他の冊子(国立がんセンターのもの)を置いており、置く場所がない。
- ・送っていただいている冊数が少ないので、患者様にあげることができない。

CNJ CancerNet Japan

1-6. 冊子についてのご意見・ご要望(1)

※一部抜粋

お褒めいただいた点

- ・患者さん、ご家族にとっても好評。ホームページも案内した。
- ・とてもよくまとまっており、また内容が適切なので正しい良質の情報源だと思う。
- ・カラー印刷で図や表が分かりやすい。字の大きさも読みやすく、またイラストも良い。冊子のサイズもちょうど良い。
- ・"Patient Voice"がとても参考になり、また患者さんの励みにもなっている。
- ・Q&Aが特にわかりやすく、他にはない内容の冊子もあり、患者面談時によく利用している。
- ・相談員が読んでわかりやすい表現となっており、相談員の方への説明もしやすい。
- ・無料で提供いただいているので助かっていた。

CNJ CancerNet Japan

1-6. 冊子についてのご意見・ご要望(2)

※一部抜粋

ご要望やご意見いただいた点

- 情報量がとても多いと感じる。
- 冊子が大きく、もう少しコンパクトであってもよい。
- 文字数が多い！圧倒的に活字が多いため、気軽に手に取りづらい。
- 多くの種類のがんについて作成してほしい。
- がんと粒子線治療、在宅医療や緩和ケア、就労やお金のこと(障害年金含むもの)の冊子が欲しい。
- 院内でも医療者もキャンサーネットジャパン (CNJ) の活動のことを十分に知られていないため、患者さんやご家族からも、ニーズとして声が伝わってこないことが残念。

 CancerNet Japan

2. インターネット上の情報発信について

インターネットの普及によって手に入れることができる情報は増え医療の情報を得ることも容易になりました。しかし、インターネット上のがん医療情報は必ずしも正しくありません。CNJの提供するインターネット上の情報発信は、信頼できる医療・健康情報のための倫理標準であるHON code*を取得しています。

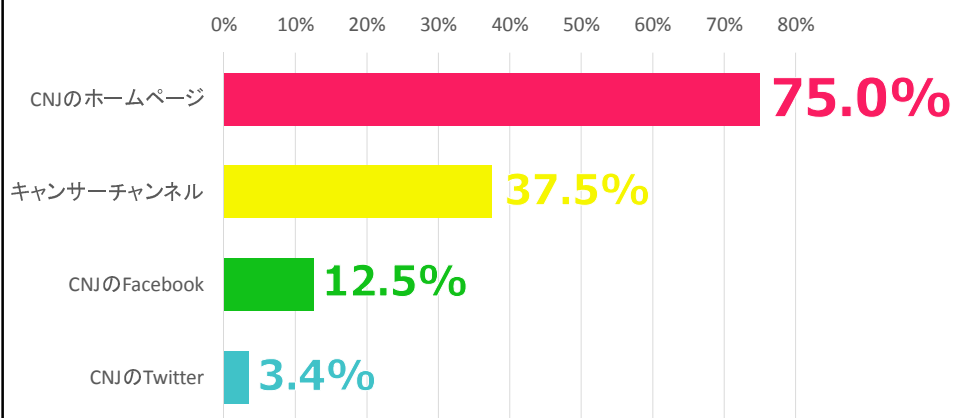
*国連公認の非営利・非政府組織で、JAMA (アメリカ医師会雑誌) 指標のものが本当に記載されているか、独自に定めた8つの審査基準に則って審査され、審査に通ったもののみがマークをサイト上に明示することを許可されます。



このサイトは、信頼できる医療・健康情報のための倫理標準である HONcode の条件を満たしています。こちらから確認してください。

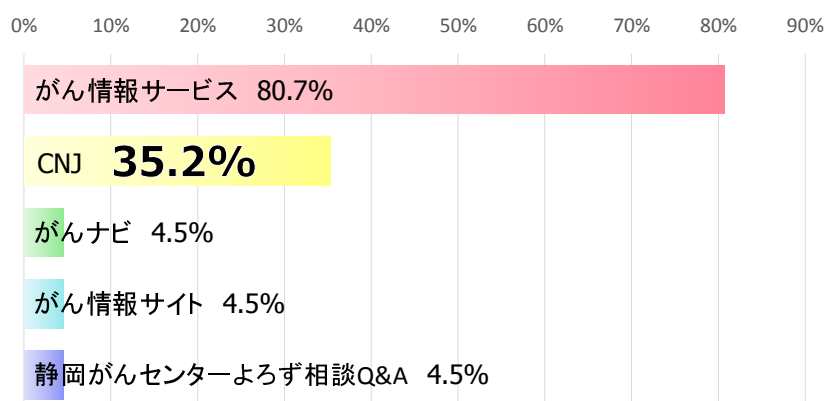
 CancerNet Japan

2-1. CNJが提供する情報発信をご存知ですか？



「CNJのホームページ」は75%の施設で認知されていた。「Twitter」がもっとも少なく、3.4%であった。

2-2. よく利用するがん情報サイト



「CNJ」のホームページはがん情報サービスに次いで2番目に多くの施設に利用されていた。

3. CNJの活動について

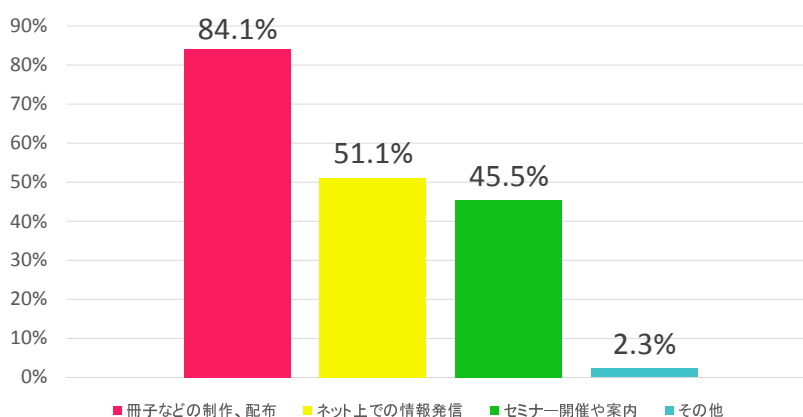
わたしたちのミッションは「がん患者が本人の意思に基づき、がん治療に臨むことができるよう、患者擁護の立場から、科学的根拠に基づくあらゆる情報発信を行うこと」です。それに立脚したビジョンは「がん体験者・家族・遺族、その支援者、医療者と共に、日本のがん医療を変え、がんになっても生きがいのある社会を実現すること」であり、私たちの活動の最終受益者は、がん患者・家族であり、一般の方々(市民)と位置づけられます。

Know (#No) More Cancer

※正確には、Know More about Cancer. ですが、このメッセージではあえてKnow More Cancerとしています

CNJ CancerNet Japan

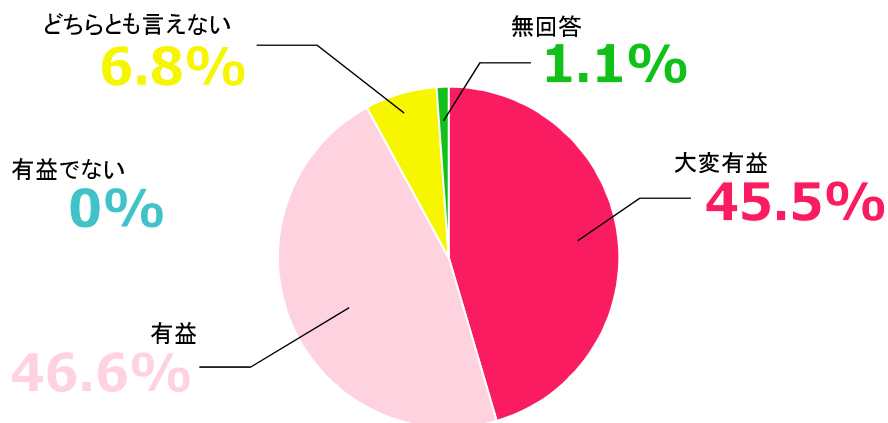
3-1. CNJに期待する活動



「冊子などの制作、配布」が最も多く、84.1%を占めていた。

CNJ CancerNet Japan

3-2. CNJからの送付物は有益か？



「大変有益」「有益」合わせて92%であった。「有益でない」と回答した施設は無かった。

まとめ・考察～冊子について～

満足度は高い

- 既存の冊子についての満足度は非常に高い
- 他のがん種、治療に関わる冊子の要望の声も多く聞かれた

活用の幅を広げている

- 2013年に行った同様の調査と比較し、設置場所は殆どの施設で相談支援センター内に落ち着いた様子
- 一方、活用方法については診察時の説明用参考資料としても活用の幅を広げている

「もっと知ってほしい」シリーズの特色を知ってもらう

- 他の冊子を掲示しているため、置く場所が無い、利用が難しいとの声が聞かれた
- 他の冊子との違いを認識し、使い分けをして貰うことが重要だと考えられる

まとめ・考察～インターネット上の情報発信について～

CNJのホームページにおける情報発信は有用である

- 75%の施設でCNJのホームページが認知されており、ホームページ上での情報発信は有用であると考えられる
- よく利用するがん情報サイトでも、国立がんセンターの「がん情報サービス」の次に利用されており、患者さんに安心してお勧めできるサイトと認識されている

CNJのFacebook、Twitterは認知度が低い

- 一方、Facebook・Twitterに関しては認知度がまだ低い現状であった。会員制のためか？

まとめ・考察～CNJの活動について～

最も期待される活動は冊子の制作、配布

- 冊子制作、配布が最も期待されるという結果になった。病院において最も活用しやすいからであると考えられる

送付物は有益

- CNJからの送付物は殆どの施設において有益であるとの回答が得られた。正しいがん情報の発信というCNJのミッションが有益と評価されていると考えられる。

今後の課題

冊子の種類の拡大

- 病院において、CNJの活動は「冊子制作、配布」が最も期待されており、今後更に多くの種類の冊子を制作することが求められる

冊子の特色を生かした活用法の案内

- CNJの冊子と他の冊子の違い(特色)をまとめ、それらを十分に活用してもらえような案内を行い、さらに冊子設置施設を増やす

インターネット上の情報発信の認知度を上げる

- 多くの方に情報を届けるために、ホームページだけでなく、FacebookやTwitterも活用していただきたい。そのためには、まず認知度を上げることが重要であると考えられる
- 各疾患の啓発リボンを用いたFacebook開設に伴い作成したフライヤーなどを冊子と同封する、冊子にQRコードを掲載する、など、方法を検討していく

 CancerNet Japan

ご協力誠にありがとうございました。

 CancerNet Japan